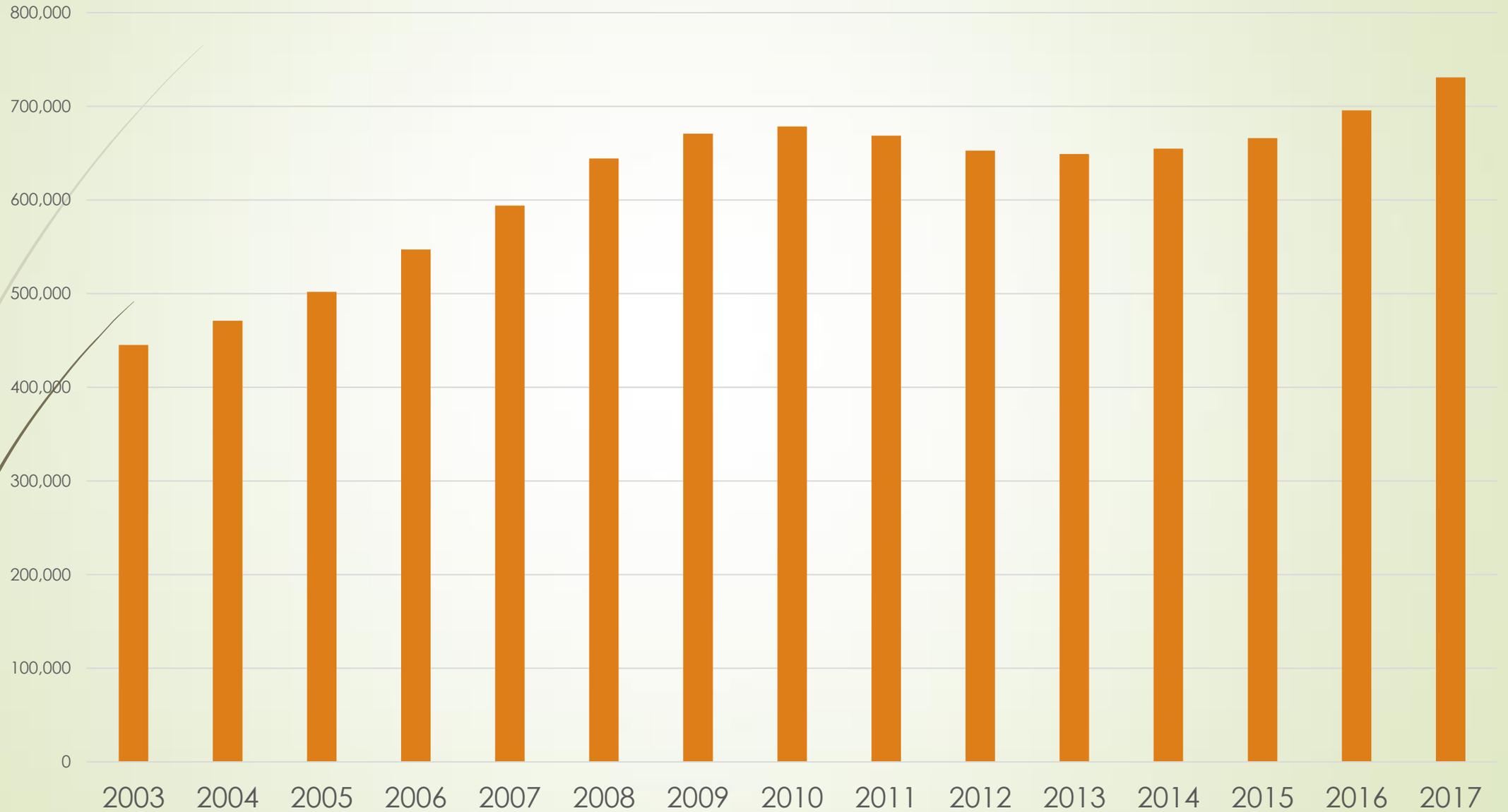




中華街フィールドワーク

赤木小百合 石川さやね 小林萌恵 油井隆成

在留人数について



在留人数について

総数 **73万890人**

永住者	248, 873人
留学	124, 292人
技能実習	77, 567人
技術、人文知識、国際業務	75, 010人
家族滞在	74, 962人



居住地域について

首都圏（東京、神奈川、千葉、埼玉）

⇒37, 3163人

三大中華街（横浜、神戸、長崎）

中華街の歴史

1859	横浜開港
1923	関東大震災
1945	大空襲
1955	「善隣門」建設
1993	「街づくり」団体連合協議会を結成
2003	朝陽門完成

問題点① 新華僑と老華僑の対立 ～ 2つの中国問題～

- ▶ **老華僑** = 1978年から行われた改革開放実施以前に渡航した中国人。
- ▶ **新華僑** = ここ数年で中華街に進出した中国人。
- ▶ 日本の環境に馴染もうとしない傾向がある「**新華僑**」の振る舞いが、古くから日本に住んでいる「**老華僑**」の怒りを買っている。
- ▶ 中華街でよく見る、「**甘栗の押し売り**」などは新華僑の振る舞いの例である。

Q.なぜ、このような問題が起こるのか

A.新華僑が日本の環境やルールに慣れていないから

老華僑の人々は、きちんとマナーを守り、完全に日本の社会に溶け込んでいるのに対し、新華僑が日本のルールを無視し、中国本土のやり方で商売をして、中国本土と同じように生活していることによって、ゴミ問題などの衛生問題が起こったり、老華僑と新華僑の対立が深まったりしている。

問題点② 中国人が日本に溶け込めない

日本で暮らす中国人が日本に溶け込めずに孤立してしまっている問題がある。

多くの中国人の移民が横浜中華街で生活している。中華街では中国人同士のコミュニティが形成されやすい一方で、言語や生活が中国人コミュニティの中で完結してしまうので日本人との間に壁を感じ孤立化してしまっている課題がある。

問題点②の解説

中国人が日本で孤立化している理由

■言葉の壁

→中国ができる教師が少ないため十分な日本語教育が受けられない、そもそも日本語を必要としない

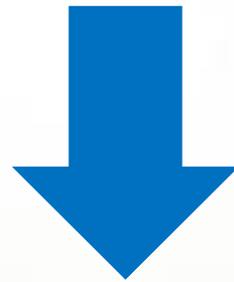
■血縁・地縁的結びつきの強さ

→中国社会では血縁・地縁の結びつきが大事にされる。移民の増加により集団への依存度が高くなる

しかし近年さらなる移民の増加で状況は変化し続けている

問題点③ 不法入国・不法滞在

中華街の近くの歓楽街・福富町には不法滞在者が多いと言われている。



不法滞在者と新華僑には関係があると考えられている。

不法滞在者と中華街の関係

- 料理をしたことのない中国人に調理免許を持たせ、違法に働かせる。
= 人件費はものすごく安い。
- 入国に必要な書類や雇用契約書の売買が行われている。
- 不法滞在が見つかったときの逃げ場になっている。



まとめ

- ・これらの問題を解決するために、中華街においてのルールを徹底し、中国人と日本人、中国人同士で話し合うことが大切である。
- ・日本人自身が、中国人に対する接し方に気を付け、国としても労働環境を整えることが必要不可欠である。

参考文献

- ▶ www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00073.html
- ▶ http://www.chinatown.or.jp/feature/history/past_present_01/
- ▶ <http://www.ko-cho.com/blog/contents/1507-04/>
- ▶ <https://www.douban.com/group/topic/22242594/>
- ▶ https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjhg1948/31/4/31_4_321/_pdf
- ▶ 千葉明著「日本人は誰も気づいていない在留外国人の実態」